



神戸学園都市 ワイズメンズクラブ



THE Y'S MENS CLUB OF KOBE GAKUENTOSHI
THE SERVICE CLUB TO THE YMCA

2020年12月（通巻318号）

< 主題 >

- ・神戸学園都市クラブ会長：柴田昌一：「みんなでチャレンジしよう」
- ・国際会長：Jacob Kristensen（デンマーク）：「命の川を信じよう（Trust in the river of life）」、スローガン：価値観、リーダーシップ、エクステンション
- ・アジア太平洋地域会長：David Lua（シンガポール）：「変化をもたらそう（Make a difference）」
スローガン：奮い立たせよう
- ・西日本区理事：古田祐和（京都トウビー）：「Let's do it now,
2022に向けて誇りを持って All is well」
- ・六甲部長：安行英文（さんだ）：「行動に信念を、信念は行動に」
Believe in what you do. Do what you believe in.
- ・2020年12月強調活動：EMC-E YES：竹園憲二 EMC事業主任（京都ZERO）
「次の世代、新しいクラブ設立の為に、YES 献金を100%。」

12月第1例会

- ・日時：2020年12月17日（木）19：00～
- ・場所：西神戸YMCA
- ・内容：クリスマス会
講話「居場所を探した一年」
丹羽 和子 牧師

< 今月の聖句 >

「家は智恵によって築かれ、
英知によって固く立つ。」

（箴言24章3節）

12月誕生者おめでとう

丹家 元陽 （12/4）

11月の出席状況

第一例会 10名
事務例会 7名

7月～累計ファンド

・CS（年賀切手）	0円
・TOF（断食）	0円
・FF（家庭の断食）	0円
・BF（古切手）	0円
・東日本募金	0円
・Yサ・ASF	0円

【役員】会長：柴田昌一、直前会長：杉本隆人、書記：杉本隆人、会計：中村 剛、連絡主事：櫻井英治
 【委員】地域奉仕・環境：内田邦彦、Yサ・ユース：森本哲男、交流：隠樹圭子、ファンド：丹家元陽、仁科拓巳
 EMC：藤井久子、広報・プリテン：田辺征一、メネット：合田洋子、メール委員：田辺征一、
 【六甲部役員】西日本区JWF委員会委員：杉本隆人 【IBC】台湾高雄ポートクラブ（2004年1月締結）
 【DBC】東京武蔵野多摩クラブ（2011年6月締結） 【DBC】岡山クラブ（2018年6月締結）

神戸学園都市クラブ 〒651-2102 神戸市西区学園東町2-1-3 TEL 078-793-7402 FAX 078-793-7470
 事務例会：第1木曜日、第1例会：第3木曜日、クラブホームページ

<http://www.kobeymca.org/ys/gakuen/bulletin.html>

<11 月例会報告>

日時：2020 年 11 月 19 日(木) 19:00~20:30

場所：西神戸 YMCA

出席：内田、隠樹、櫻井、柴田、杉本、田辺、
中村、仁科、野呂、森本

卓話者である隠樹圭子ワイズは長年、介護福祉に従事され、その中で直面した数々の問題から政治の大切さに目覚め、現在、立憲民主党兵庫第 10 区総支部長の重責にあり、多忙な日々を送っておられます。

当日は「政治家に何を期待するか?」「政治家の役割・仕事とは何か?」「あなたにとって政治参加とは?」を問題提起され、出席したワイズたちとの対話を通して日頃あまり話し合わない問題についてお互いに意見交換ができました。

最後に「私が目指す政治家像」をまとめられ、①政治には正解がないこと、②これでよい、これが最高だと思った時点で腐敗と衰退がはじまること、③常に「これでよいのか?」と己の判断を疑い続けること、④他人を思いやることのできる政治家であることなど、政治家としてご自身の信条を語っていただきました。

日ごろ、お互いに語る事のない意見交換の場でありましたので、大変貴重なひと時となりました。(田辺征一)

<12 月事務例会報告>

日時：2020 年 12 月 3 日(木)19:00~20:15

場所：西神戸 YMCA

出席：内田、櫻井、柴田、杉本、田辺、辻本、
中村、仁科、野呂、森本

報告事項

- (1)杉本ワイズにブスター賞が授与された。
- (2)第 62 回神戸市民クリスマスが中止。
- (3)3.11 メモリアル被災地復興支援プロジェクト(石巻広域ワイズメンズクラブ)からの支援パンフレットを配布。

協議事項

- (1)12 月のクリスマス例会開催について

今年はコロナ禍により西神戸 YMCA との合同クリスマス会は中止。12 月例会では丹羽牧師からクリスマスメッセージをいただく。開催日時は 12 月 17 日(木)18 時からとする。

- (2)新年例会について

1 月 23 日(土)18:00~居酒屋「あみ」。最終確認

は再度行う。

- (3)1 月事務例会について

1 月 7 日(木)19:00~

- (4)2 月例会について

2 月 18 日(木)19:00 ヨガ教室

YMCA 報告

・年明けに倉庫の整理をするのでワイズの協力を
をお願いする。

<寄稿>

「ジブラルタル海峡クルーズと色彩の 王国モロッコ 11 日間」 (第 6 回)

8 月 26 日(月)

今日は本格的にアトラス山脈を越えて砂漠の入口エルフードを経て、メルズーカまで約 8~9 時間のロングドライブ。曲がりくねった登り道の両側にはリンゴ畑、無花果畑が広がり約 1 時間半で高原の街イフレンでティータイム。ここは標高 1650m でモロッコの避暑地。冬には雪が降り、スキー場もある。スイス風の街並みが続き、涼しい。更に南下し野生の猿に出会った針葉樹林帯(アトラスシーダー・杉)を更に登ると、木がなくなり、チヨボチヨボとしか草の生えていない荒野に出る。所々に羊の群れが草を食んでいて遊牧民達の掘っ立て小屋がポツン、ポツンと立っている。ここがモワイヤンアトラスの頂上というが、2 時間以上走っても同じ風景。荒野の中に突然現れたホテルのレストランで昼食。標高 1400m。ここにはビールがあった。万歳!乾いた喉にすべり込む。前菜はスープ(人参+カボチャ?)。メインが鱒の香草(バジル)焼き。久し振りの魚で完食。付け合わせに、ナス、人参、キュウリ、ズッキーニ。デザートは当地名産のリンゴを使ったアップルパイで大満足。この辺もサハラ砂漠と言うらしい。サハラとは「荒れ果てた」という意味。ここから更に南下する度に高度が下がり、やっとアトラス山脈の南側に行く。途中の緑のある所(オアシス)には、ナツメヤシの林、トウモロコシ、香草を栽培している村が点在。童話の世界でのオアシスは、ヤシの木が 10 本程生え、中央に泉があり、ラクダが草を食んでいるというイメージだったが。本物のオアシス、特にズィズ峡谷では水の流れる川の両側、巾約 1 km で長さ数 10 km にもなる広さにびっくり。そして途中の町イミルシルでは毎年 9 月 17 日に集団

見合いが行われる。広い砂漠で相手を見つけるのは至難の業。未婚の女性はここぞとばかり着飾り、男性は家畜等の全財産を持って集るとの事。バスは岩山を粗く削っただけの曲がりくねった道をかなりのスピードで走る。日本では「落石注意」とか落石防止フェンス、ネットとかがあるはずだが、ここモロッコでは広すぎて、そんな事はやっておれないらしい。大きな岩が落ちてきたら、バスは反対側の深い谷に落ちていくだけ。そして、バスは山脈を越えて、砂漠の入口の町エルフード着。この街の化石工場（Macro Fossils Kasbah）を見てびっくり。約10数km離れた石切場から運んできてカットして、磨いてテーブルや衝立に加工している。その表面には、アンモナイトを始めオーム貝、巻貝、三葉虫とかの化石がびっしりと。へー！よく磨かれたアンモナイトの置物を自分の土産に。今、医院の待合室にデンと。ここで1泊分の荷物をまとめて、4WDに乗り替える。砂漠の近くへはバスでは無理らしい。4WDでもトヨタが人気なのだが、窓は充分に開かず、何10年前

のものか不明。20分は普通の舗装道路を走っていたが、そのうちに凹凸の砂利道を走る事に。そして約20分で突然、左手に夕日に輝くイメージ通りのオレンジ色の砂丘が見えてきた。オー！お皿に盛ったオレンジ色のアイスクリームが溶けかかったような滑らかな曲線が本当に美しい。メルズーガのホテル AUBERGE TOMBOUCTOU 着。2階建のホテルのベッドカバーのオレンジ色のグラデーションも見事。そして、洗面台も化石だらけ。早速、ホテル裏のラクダステーションへ。数10頭が無心に干草を食べている。そこにあるラクダ用の水飲み場の横には、井戸があった。なんと深さは5mしかない。この冷たい水はサハラ砂漠の贈り物との説明が信じられなかった。夕食はブッフェ方式で。タジンに疲れてきたお腹にはこれがいい。約30種類の中からチョイスでき、更にフラッグビール、カサブランカビールも飲める幸せに、ツアーメンバーの顔も明るい。

（丹家元陽）

< 今月の聖句 >

「家は智恵によって築かれ、英知によって固く立つ」

（箴言24章3節）

たった一人で家を建てている大工さんに聞いた話。「最近家のまわりに玉砂利を敷く人が多くなった。これは昔からの知恵なのだが、その理由が情けない」と。

いまの人たちが玉砂利を敷くのは、不法侵入者防止のためで、塀・壁が庶民の家になかった時代、人が来たことが分かるために玉砂利を敷いた。最近では不法侵入防止なのだと言っておられました。人が来たことを知るのか、人が入らないように警告するのか。人間の心の本質を見つめさせられます。昔の人たちの知恵を、私たちはどのように受け継ぐべきなのかを考えました。何が知恵で、何が英知なのかです。箴言は「家は知恵によって築かれ、英知によって固く立つ」と教えます。人が生きること知恵が直接かかわります。神から与えられる知恵は、英知に変えられ人間にとって大切な基盤となっていきます。それをどのように用いていけばいいのかがコロナ禍の中の課題です。

西日本区チャプレン 立野 泰博（熊本ジェーンズ）

西日本区理事通信2020年12月号から転載